一般財団法人 共立国際交流奨学財団 主催

第73回 研修会

北海道·標津町



日程表·参加者作文紹介

月日	時間	日 程	宿泊先
2/7 (木)	11:00 12:05 13:45 14:30 15:00	羽田空港集合 羽田空港発(ANA837) 中標津空港着 歓迎式(ホストファミリー紹介) サーモン科学館(水族館)見学	旅館
2/8 (金)	終日 昼食	雪像づくり 雪原バーベキュー	旅館







ı	月日	時間	日 程	宿泊先
	2/9 (土)	午前 午後	ホストファミリー対面 ホストファミリーと交流 冬まつり	ホームステイ
	2/10 (日)	10:00~	ゲレンデスキー体験(標津町営金山スキー場)	ホームステイ







衣 雪莹(中国) KCP 地球市民日本語学校

- ① 私が、研修会の中で一番印象に残ったことは、食べ物が美味しくて新鮮だというところです。いくらやホタテ、牛乳など全部取ったばかり新鮮度がたかい食べ物だ。その味は東京と違って、最高だと思う。いつも料理を食べながら、地元の人が料理について一つずつ説明してくださって、よかったと思う。なぜなら、美味しい料理を食べる同時に、日本の飲食文化と関連することも習ったからだ。
- ② 私が、今回の体験を通じて感じたことは、標津町の生活や雰囲気などと東京全然違うところです。私、外国人としても東京の生活が辛いイメージが持っている。日本人ならもっと辛いと思う。電車も込んでいるし、生活のスピードも速いし、何といっても毎日時間に追われると思う。でも標津町ならちょっと楽な生活を感じた。そして、標津町の人々はてとても優しくて、心からの笑顔で温かく扱ってくれました。初めてのホームステーに参加して、ここに来てよかったと思う。
- ③ 高桑さんへ

パパ、ママ、一朗くん、愛美ちゃん、この二日間、いろいろお世話になって、本当にありがとうございました。二日間の間、パパが一生懸命努力して、標津町についてのことを教えて下さいました。また、中国のお正月の初めの朝、パパのおかげで日の出を見て、本当にいい思い出だと思う。ママも沢山美味しい料理を作ってくださいました。ママは子供たちの世話が大変でも、ずっと優しくて、いい教育だと思う。パパのおかげで私たちが自分で作った T シャツも大事な思い出になった。また、機会があれば標津に行こうと思っています。最後に、一朗くん、愛美ちゃん、いい子供たちと思うよ。元気でね!!

月日	時間	日程	宿泊先
2/11 (月)	午前 午後	体験交流(郷土料理つくり) スノーハイキング(トレッキング)	旅館
2/12 (火)	午前 13:00 14:20 16:15	野村半島バードウォッチング 標津町出発 中標津空港発 (ANA840 便) 羽田空港着後 解散	







カスマン ジェイラン Osman Ceylan(トルコ) 東京大学

- ① 私が、研修会の中で一番印象に残ったことは、サーモンの水族館を観覧することです。さかなを触ったり、餌を撒いたり、とてもたのしかったです。そして、いももちとホタテ料理を作るのはたのしい体験でした。
- ② 私が、今回の体験を通じて感じたことは、日本人のホストファミリーはとても優しく、礼儀が正しいです。日本人はいつも微笑んでいます。このイベントは、日本人のライフスタイルと習慣を感じるチャンスです。日本人は私を家族の一員として扱ってくれ、とても感動しました。
- ③ 鈴木夫婦さんへ 短い間、いおろいろお世話になって、ありがとうございました。そばとすしの作り方をお教えていただき、ありがとうございました。また、毎日おいしい料理を作っていただき、とてもアットホームだと感じました。機会があれば、絶対トルコに来てください!

新聞掲載記事

2月9日土曜日の釧路新聞に、第73回研修会(北海道・標津)の活動を掲載して頂きました!



北海道や沖縄でのホームス 財団(本部東京)の主催で、 テイを通して文化を学んだ -モン科学館で行われたア 目的としている。 地域の人々との交流を

がとてもきれい」と流ちょ

うな日本語で話していた。 チングなどを楽しむ。 留学生らは12日まで滞在 野付半島でバードウオ 金山スキー場でスキ

ズム交流推進協議会は7日 進する標津町エコ・ツーリ 【標津】体験型観光を推 生や、母国で日本語を学ぶ 受け入れを行っている。首 都圏の大学などに通う留学

交 流 推 進 協エコ・ツーリーズム

受け入れ

の留学生

標

町エコツー 町の体験観

でいる。

エコツーリズム協

研修旅行受け入れ

の遊

体

津

アーで、冬の標津を楽しん ングやアイスランタン作り でもらおうと、8日にはス 今回は中国、韓国、カナ ・シューで雪原トレッキ

り上げた。 った後、みんなで協力して 日本のアニメやマンガ、

雪玉を並べてランタンを作 けじと奮闘。水を含ませた 学生らがいてつく寒さに負 は、防寒着に身を包んだ留 イスランタン作り体験で SENSHIN

根室版

日土曜日

発行所 釧 路 新 聞 社 ©釧路新聞社2013

2月12日火曜日の釧路新聞に、第73回研修会(北海道・標津)の活動を掲載して頂きました!



学校に通い出した鄭蘩茵

大学卒業後、香港の日本語

(テイチーヤン)さん(22)は

「雪は初めて。真っ白な風景

ている。 の研修旅行を受け入れ や欧州の留学生ら20人 の主催で、道内での受 から12日まで、アジア 学生たちは雪の季節な (千葉元会長) は7日 昨年に続き2度目。 冬の受け入れ

リズム交流推進協議会 交流奨学財団(東京) 支援している共立国際 東京の大学や日本語学 け入れは標準町のみ。 校に通う中国、韓国、 研修旅行は留学生を る。 か

ーシューを体験したほ 、サーモン科学館前

らではの体験を楽しん

ンランドの留学生と香 学生が訪れ、旅館や 冬の標津を体験してい 般家庭に宿泊しながら 港の日本語学校に通う 8日はポー川でスノ

さん(22)は「雪を見る た。香港の日本語学校 タンづくりに挑戦し に通うテイ・チーヤン 積み重ねたアイスラン きれいです」と、習い のは初めて。 ちょうな日本語で話し 始めて5カ月という流 (伊藤美穂 真っ白で



升

2013年 2月12日区

発行所:北海道新聞社 札幌市中央区大通西3丁目6 〒060-8711 電話: 011-221-2111 www.hokkaido-np.co.jp